

戰時ニ於ケル口演訓令ハ其訓令ヲ受ク可キ人物ノ何如ニ依ルヲ要ス故ニ豫メ其部下人物ノ如何ヲ識別スルト一大緊要ナリ平時ニ於テハ之ヲ識別スルノ機會アリ即チ其部下ヲシテ獨立シテ處置セシメ以テ試験スルコトヲ得可シト雖モ戰時ニ在テハ之ヲ爲スト能ハス天資敏捷ナル者ニ對シ往々二三ノ語ヲ以テ辨スヘキ事モ凡人ニ對スルキハ細密ナル訓令ヲ下サ、ル可ラサルコトアリ記憶セヨ我國軍隊ト雖モ中少尉タルモノ、働作各々異ニシテ遲鈍ナルモノアルヘク又俊英ナル者アルヘキヲモルトケ及ギヨトベン等ハ曾テ中少尉タリシモ爲セシ働作ハ將官ト雖モ企テ及フ可ラサルモノアリシニアラス

ヤ又那勃翁ハ千七百九十六年伊太利ノ役ニ於テ赫々タル功名ヲ顯シ全歐洲ノ戰術家ヲ驚歎セシメタルニアラスヤ其齡ヲ問ヘハ即チ古參少尉ト相比不可シ且口演訓令ヲ與フルニハ下官ノ性質ヲモ顧慮セサル可ラス今姑ク枝隊ノ前進極メテ必要ナル場合アリト假定セヨ而シテ此時其指揮官性過激ナルキハ所要ノ事項ヲ述ヘタル後左ノ語ヲ加フ可シ曰ク「貴官ハ其枝隊ヲ犧牲ニ供ス可ラス」ト然レモ柔弱ナル指揮官ニ對スルキハ左ノ如ク教示スルヲ要ス曰ク「貴官ハ他事ヲ措テ敵ニ向ヒ直進ス可シ」ト即チ過激ノ者ニ對シテハ忠告シテ之ヲ警メ柔弱ノ者ニ對シテハ之ヲ鼓舞シテ敢爲ナラシメサル可ラス

戰時ニ於ケル命令報告ノ様式及其語法ノ忽ニス可ラザ  
 ルトハ既ニ明瞭ナリシナラン然レモ亦様式ヲ墨守スル  
 片ハ毫モ利ヲナスシテ却テ害アルヘシ  
 兵棋戰術冬季作業偵察騎行及野外勤務演習ニ於テ往々  
 一定ノ様式ヲ規定スルヲ見ル是レ益ナカル可シ若シ如  
 斯スル片ハ奮ニ之ヲ遵守セシカ爲メ心ヲ勞スルノミナ  
 ラス好シテ業ヲ習フノ風ヲシテ冷却セシムルニ至ル通  
 常事物ノ眞意ヲ看破スルノ能力ナキ者ハ外形ヲ裝飾シ  
 漫リニ様式ヲ主張シテ以テ其無能力ヲ補ヒ若クハ之ヲ  
 覆ハントスルモノナリ吾人ハ上ノ如キ様式的ヲ以テ事  
 ヲ處シ精神的ヲ以テ物ヲ辨セサルノ日ニ於テ皇帝陛下

ヨリ百事戰爭ヲ以テ目的トスルニ訓令ヲ受ケ奉ルハ  
 恰モ大早ノ雲霓ヲ得紅塵十丈ノ都市ヨリ出テ清淨潔  
 白ナルアルペン山上ニ登リタルカ如キ感アリキ  
 兵棋ハ非専門家ノ設ケタル規定ニ從フルハ往々斯ノ演  
 習ヲシテ誤リタル方向ニ誘フニ至ル蓋シ兵棋ハ地圖上  
 ニ於テ行フ戰術演習ナリ此兵棋ヲ演スルハ地圖梯尺  
 兩脚器及隊符ヲ要スルニ過キス而シテ統裁官ノ任ハ戰  
 況ヲ作爲シ彼我兩軍指揮官ノ爲シタル處置及命令ニ從  
 ヒ利益アル方法ヲ以テ演習ヲ經過セシムルニ在リ然ル  
 ニ之ヲ是レ勉メスシテ屢將校ヲシテ唯錯雜ニシテ且ツ  
 殆ント無用ナル兵棋取扱法ヲ學ハシムルコアルヲ見ル

故ニ兵棋演習ハ之ヲ至當ニ統裁スルキハ大ニ利アルヘ  
 シト雖モ否ラサレハ往々時間ヲ徒費スルノミナラス少  
 壯ノ將校ヲシテ戰爭ノ本性ニ就キ誤見ヲ懷カシムルニ  
 至ルコアリ予ハ實ニ兵棋ハ青年將校ニ忌嫌物トナルコ  
 ヲ見タリ斯ノ如キ退屈シテ嫌忌ス可キ統裁法ノ兵棋ハ  
 既ニ述ヘタル如ク寧ロ無用ノコタリニ隊符ハ其錯雜言  
 フ可ラス成ルヘク速ニ參謀部所定ノ軍隊符號ト相一致  
 スル者ヲ採用センコトヲ企望ス現今用フル所ノ兵隊隊符  
 ハ之ヲ了解センカ爲メ豫習ヲ要ス何ノ故ヲ以テ斯ノ如  
 キ奇異ノ隊符ヲ要スルヤ兵棋ハ素ト戰術上ノ演習ヲ爲  
 ス可キモノナルヘシ然ルニ如斯ナル所以ノ者ハ事物ノ

眞意ヲ看破シ能ハサル者ノ好避ヨリ從來存セサル細密  
 ノ事ヲ創設シ以テ之ヲ新ニ教ヘントスルノ致ス所ナリ  
 千八百六十年代ニ於ケル戰術上ノ冬季作業ニ就テ學國  
 ノ砲兵科内ニハ數多ナル様式的規定アリテ之カ爲メ特  
 別ニ一書ヲ編纂スルヲ要セリ此書籍ハ百葉以上アリ今  
 尙存シ學國砲兵歴史中有益ナルモノニ屬ス何トナレハ  
 當時ノ砲兵科ハ如何ニ本職以外ノ事物ヲ研究セシカヲ  
 證スルヲ以テナリ即チ當時學國砲兵將校ハ戰術上ノ作  
 業ニ就キ何ヲ以テ其主眼ト爲シタルヤヲ知ルニ足ルナ  
 リ千八百六十六年ノ役ニ於ケル學國砲兵ノ動作ヲ了解

セントスルニハ此書ヲ讀マサル可ラス此役ニ於ケル字  
 國砲兵ノ失策ハ當時用フル所ノ其砲ノ滑臆砲ニ皈スヘ  
 キモノ尠ナク又行軍序列ニ於ケル配當ヲ誤ルノ罪尠シ  
 寧ロ砲兵將校ノ戰術上ノ過チニ皈スヘキモノ多シ此時  
 代ニ於テハ戰術ニ屬セサル事項ヲモ尙戰術ト爲セシモ  
 ノアリハ若シ夫レ砲兵將校ヲ教フルニ當リ砲門ヲ失フ  
 ヲ以テ一大耻辱タルコトヲ以テスルモ千八百六十六年  
 ノ役ニ於ケルカ如ク其砲門ヲ失ハシコトヲ恐レ危險將校  
 追エントスルヤ直ニ砲隊ヲ卒ヒテ遁逃スル事敢テ驚ク  
 ニ足ラサルヘシ字ノ砲兵ハ幸ニシテ速ニ此過失ヲ看破  
 シ急ニ新法ヲ採用セリ此法ノ當ヲ得タルコトハ千八百七

十年同七十一年ノ役ニ依テ之ヲ證スルニ足ル字ノ砲兵  
 ニシテ千八百六十六年ノ如キ痛歎スヘキ境遇ヲ脱セザ  
 リシナランニハ七十年及七十一年ノ役ノ經過果シテ如  
 何蓋シ六十六年ノ經驗アラサレハ七十年ノ成績亦得可  
 ラサリシナリ

野外要務令中ニ筆記ノ演習作業ニ係ル様式上ノ規定ヲ  
 載セタルト第五頁ニ掲ケタル様式ノ左ノ文ニテ終リタ  
 ルハ字ノ幸ト云フ可シ其文ニ曰ク

「筆記ニ係ル作業ノ式ニ就テハ爾餘ノ規定ヲ設クルヲ  
 禁スト」

斯ノ如ク爲スモ恐クハ甲若クハ乙上官新式ヲ發見スル

ノ傾向ヲ杜絶スルヲ得サルヘシ  
 偵察騎行ニ就キ予ハ曾テ特別ナル規定アルヲ見タリ此  
 規定ニヨレハ總テ作業ニ添ユルニ掌圖及總圖ヲ以テス  
 ル是ナリ故ニ掌圖及總圖ヲ添ヘサルモハ以テ戰術的夏  
 期作業タルノ價值ナシトセリ然レモ思ヘ有益ニシテ  
 且ツ精神ヲ勞スヘキ任務ニシテ其答解ニハ右ノ如キ掌  
 圖ノ附加ヲ要セサルモノアルヲ即チ之ニ代フルニ參謀  
 部ノ地圖ヲ以テ充分ナリトスルコトアリ蓋シ總圖ヲ要ス  
 ルハ作業中ニ在ル村落等悉ク之ヲ掌圖内ニ容ルハ能  
 ハサル時ニ限ル可シ若シ前文ノ規定ヲ墨守スルモハ將  
 校ヲシテ無益ニ總圖ヲ添加セシムルモノニシテ將校ハ

之ヲ以テ虚飾ニ過キサルモノト思惟シ爲メニ總圖ノ必  
 要ナル場合ニ臨ミ却テ之ヲ忘ルハアルニ至ル可シ然  
 レモ所要ノ事項ヲ記シタル單簡ナル掌圖ヲ添ルコトハ有  
 益ナル練習トナル可シ前哨ノ配布ヲ明了ナラシムル爲  
 メ精密ナル掌圖ヲ用ユルモハ縱令ヘ特別ノ報告ヲ要ス  
 ルコトアルモ其効タル太ナリ上ノ如キ細密ナル規定ヲ  
 設クルハ獨リ其業務ニ樂ムノ心ヲ減スルノミナラス其  
 演習ハ一ニ死物ニ屬ス可シ  
 野外勤務ノ演習ニハ必ラスシモ一般方略及特別方略ヲ  
 要セス故ニ枝隊ニ一定ノ任務ヲ與フルヲ以テ良トスル  
 コトハ第一卷ニ於テ既ニ論シタリ若シ枝隊小ナルモハ實

戰ニ適スル戰略的ノ狀況ヲ寫出スルハ困難ナリ即チ歩兵僅ニ一大隊ノ爲メニ適當ナル一般方略及特別方略ヲ設クルハ頗ル困難ナルヲ以テ實際之ヲ設ケテ人ノ嘲笑ヲ受クルモノ往々ニシテ是レアリ余ハ之ヲ廢止スルノ優レルニ如カスト爲ス

例令ヘハ互ニ交戦ス可キ兩枝隊ヲ甲乙二村ニ派遣シ甲村ヲ枝隊長ニ命スルニ左ノ語ヲ以テスヘシ曰ク「敵ハ乙村ニアリ貴官ハ乙村ヲ略センカ爲メ之ヲ攻撃ス可シ」

乙村ノ枝隊長ニ命スルニ左ノ語ヲ以テス可シ曰ク「敵ハ甲村ニアリ貴官ハ甲村ヨリ行フ所ノ攻撃ニ對シ

乙村ヲ防禦スヘシ」

若シ遭遇戦ヲ行ハント欲セハ兩枝隊長ニ攻撃任務ヲ授ク可シ

然ルニ統裁官ハ部下ヲシテ行ハシメントスル戰鬥ニ適セサル冗長ナル一般方略及特別方略ヲ授ケテ右ニ代ツルコトアリ故ニ指揮官ハ此一般方略及特別方略ヲ以テ假設物ニ過キサルモノト見做シ實戦ニ在テハ攻撃若クハ防禦スヘキ理由ナキニモ拘ラス統裁官ノ意圖ヲ察シ攻撃シ若クハ防禦ヲ爲スニ至ル而シテ戰時ニ於テ枯草若干斤ノ利害ニ就キ死傷數百名ニ至ルマテ戰鬥スルコトアルヘキ歟決シテナシ百斤ノ枯草ニ比スレハ數百名ノ人

ハ其價必ス貴シトス

一話アリ曾テ「ザクセン」ニ於テ施行セシ野外勤務演習ノ一般方略ニ曰ク「ザクセン、コーブルヒ、ゴータ」國ハ孛國ノ兵力増加スルヲ嫉ムト是レ素ヨリ假想ニ過キサルモ是レ驚クヘキ一般方畧及特別方略タルヲ証スルニ足ル可シ予ハ曾テ我國ノ中心ニ於テ歩兵大隊ノ演習施行ノ際其兩枝隊長ノ一ニ授ケタル特別方略ニ左ノ如ク假定セシモノアルヲ見タリ曰ク英ノ艦隊ハ東海ニ進入シタリト然ルニ歩兵若干大隊ヲ互ニ戰ハシメシカ爲メ某地ニ火災アリト假定スルカ如キ毫モ必要ノコニアラサルナリ

無烟火藥

予ハ終リニ臨ミ輓近ノ發明ニ係ル無烟火藥ノ効力ヲ詳論セントス此無烟火藥ハ燃燒スルニ當リ頗ル稀薄ナル淡青色ヲ發シ忽チニシテ消滅ス故ニ歩兵銃ノ射撃ニ在テハ凡三百米突ヲ距リテ見ルヲ能ハス砲兵ニ在テハ中距離ニ於テ見ルヲ殆ソト難ク縱令之ヲ觀ルモ瞬時ニ過キス若シ其後方ノ狀況通視ニ不利ナレハ全ク之ヲ見ルヲ能ハス而シテ我砲ノ狙覘ヲ害スルヲナシ化學ノ進歩如此ナルノ日ニ當リ從來ノ硝烟ハ殆ソト其跡ヲ絶ツト至ルヘキヲ復疑ヲ容レサル所ナリ但此ノ硝烟ニヨリ企望スヘキ成績果シテ其効ヲ奏シ得ルヤ否是レ目下ノ問題ナリ要スルニ予輩ハ目下既ニ無烟火藥ノ如キ良材ヲ

有セリ實ニ無烟火藥ノ響ハ弱クシテ步兵銃ノ射撃ハ四  
 百米突ニ於テ之ヲ聞クヲ能ハス砲兵ニ在テハ從來ノモ  
 ノニ比シ弱キヲ三分ノ一ナリ  
 此新火藥ノ効力ニ係ル意見ハ甲乙二派ニ分ル甲ノ意見  
 ニヨレハ無烟火藥ノ爲メ毫モ用兵法ニ變更ヲ生セスト  
 乙ハ全ク戰術ヲ一變スヘシト云フ然レモ意見ノ斯ノ如  
 ク相反スルハ予ノ解セサル所ナリ縱令此新火藥ハ未タ  
 實戰ニ經驗スル所ナシト雖モ之ヲ從來ノ戰役ニ徴シ硝  
 烟及音響ノ戰術ニ關係スル如何ハ既ニ知ル所ナリ即チ  
 重大ナル關係ヲ有スルハ固ヨリ疑ヲ容レサルナリ然ラ  
 ハ則チ硝烟ノ消滅ト音響ノ減少トハ重大ノ變動ヲ生ス

ルヲ復疑フ可ラス唯其疑フヘキハ人ノ精神ニ及ホス所  
 ノ影響幾何ナルヤニアリ總テ新火藥ニ係ル爾餘ノ影響  
 ハ舊火藥ノ影響ヲ詳カニスレハ忽チ明瞭ナルニ至ラズ  
 一名ノ步兵一門ノ砲ハ顯然地平線上ニ出テサルモ中  
 距離ニ於テ之ヲ見ルヲ既ニ難シ况シヤ地上ニ存スル蔭  
 蔽物ヲ利用セシトテ努ムル者ニ對スルニ於テヲヤ從來  
 ハ我ヨリ觀ルヲ能ハサル時ト雖モ其步兵或ハ砲兵ヨリ  
 射撃ヲ初ムルヤ輒チ之ヲ知ルヲ得タリシ又敵ノ砲兵或  
 其背後ニ蔭蔽物ヲ有スルモ之ニ接シテ占位スルモ或  
 ハ二三百歩ヲ距ルヤ否ハ之ヲ知ル可ラサルモ左右ノ方  
 向ニ至テハ硝烟ニヨリ能ク之ヲ詳ニスルヲ得タリシ敵



ノ發射スル砲數ニ於ケルモ亦然リトス而シテ此砲數ハ  
 敵ノ兵力ヲ判斷スルノ標準トナルモノナリ何トナレハ  
 編制ノ通則トシテ歩兵若干大隊ニハ概テ砲若干ヲ附ス  
 ルノ制限アルヲ以テナリ故ニ戰鬪ノ初期ニ於ケル硝煙  
 ハ恰モ兵機面上ノ隊符ニ於ケルカ如ク交戦スル敵ノ軍  
 隊ヲ詳ニスルヲ得タリシナリ又敵ノ展開スル兵力多ク  
 射撃ノ時間長ケレハ硝煙從テ多ク其軍隊ヲ煙滅スル  
 甚シ夫ノ戰將ニ耐ナルニ至レハ敵ノ陣地ハ遂ニ濃煙ニ  
 掩ワレ時々砲門ヨリ電光ヲ發スルヲ見ルノミニシテ其  
 歩兵ノ戰鬪線ニ在ルモノハ唯朦朧トシテ一塊團ヲ顯カ  
 スニ過キサレハ前進スル援隊大ナル預備隊及ヒ襲撃ヲ

爲サシカ爲メ隊制ヲ整頓スル騎兵等ハ之ヲ目撃シ能ハ  
 サルト多カリキ即チ狙覘シテ射撃スルト及ヒ試射スル  
 所ノ砲彈ヲ目撃スルト難カリシナリ我軍隊ニ取リテモ  
 其狀況ハ右ニ同シ始ハ硝煙ニ依リ敵ヲシテ我陣地ヲ知  
 ルヲ得ゼシメ然ル後我軍隊ハ之カ爲メ煙滅セラレ我ヨ  
 リ狙撃シ且ツ展望スルト能ハサルト一般敵モ亦タ我軍  
 隊ヲ通視スルト能ハス且ツ之カ爲メ我軍ハ其指揮ヲシ  
 テ益困難ナルニ至ラシメタリ硝煙ハ實ニ從來ヨリ戰地  
 ニ於ケル物体ヲ掩翳シ彼我兩軍共ニ漸ク相視ルヲ能ハ  
 スシテ益々不安ノ地ニ陥リ且ツ偶發事項ノ犠牲トナラ  
 シメタリ今ヤ戰場ノ光景一變シ煙霧ノ爲ニ掩ウル所

トナラス又從來ノ如ク開戦前及開戦ニ臨ミ步兵銃ノ硝  
 烟時トシテハ砲兵ノ硝烟ト雖モ敵ヲシテ我陣地ヲ察知  
 セシムルニ至ラス而シテ從來歩兵射撃ノ音響ハ其後方  
 ニ在ル軍隊ノ爲メニ警報ヲ發スル具トナリタルモ今ヤ  
 既ニ之レ無レ又遠距離ニ於ケル激戦ハ其音響ニ依リ我  
 軍隊ノ危険ノ地ニ在ルヲ察知セシメシモ今ヤ之ヲシ  
 テ我耳朵ニ達セシマス我前衛ニ達スル第一ノ敵ノ砲彈  
 モ時トシテ本隊ニ在テ聞クヲ能ハサルヘシ之カ爲メ開  
 戦ノ期ヲ知ルニ由ナシ總テ是等ノヲハ用兵法ノ變動ヲ  
 招クニ至ラサルヤ否乎試ニ之ヲ論セン  
 第一駐止スル敵ニ對スル搜索勤務ハ從前ト異ナル所メ

方法ヲ用ヒサル可ラス騎兵ハ射撃ヲ受クルモ其彈丸何  
 所ヨリ來ルヤヲ知ラズ况ンヤ遠距離ニ達シ得ヘキ歩兵  
 銃ハ從前ニ比シ更ニ遠距離ノ地ニ於テ射撃ヲ爲ヌ又以  
 テ之ヲ知ルコト一層難シトス夫レ如斯騎兵ニシテ耳朶  
 過クル所ノ銃丸何地ヨリ飛來スルヲ見且ツ聞クヲ能ハ  
 サルモノトスルハ之ヲ報告スルニ何ノ術ヲ以テス  
 キヤ若シ其術ナシトスルハ敵狀ニ就テ確實ノ報告ヲ  
 得サル司令官ハ如何シテ自ラ決心スヘキヤ搜索ノ方法  
 困難ナルニ至ルハ知ルヘキナリ故ニ駐止スル敵ニ向テ  
 搜索スルハ從前ヨリモ一層強大ナル騎兵部隊ヲ縱チ  
 敵ヲ目撃スルニ至ルマテ進マシメサル可ラス騎兵ハ此

ヨリシテ其馬匹ノ速カヲ以テ恐クハ唯一ノ護身具ト爲  
スナラン

單獨ノ騎兵ニシテ敵ノ露營内ニ侵入シ彈雨ヲ濺キ敵  
ノ追撃スル所トナルニ拘ラス身ヲ全フシテ遁逃シタ  
ルコアリ

然レモ斯ノ如クスレハ數多ノ兵馬ヲ費スニ至ル可シ是  
ニ於テ乎搜索ニ就キ騎兵ニ望ム所ノモノ從來ニ比シ一  
層大ナルニ至レリ加之將來ノ攻戰法ヲ察スルニ敵ハ何  
レノ地ニ於テ何レノ方法ヲ以テ位置スルヤヲ知ラザカ  
爲メ先ツ騎兵ヲシテ戰鬪ヲ開始セシムルニ至ル可シ我  
獨乙軍團ニ屬スル騎兵ノ數ハ是等ノ任務ヲ盡ス爲メ餘

リアルヤ否是レ目下ノ問題ト爲サ、ル可ラス  
前哨勤務ニ於ケルモ亦幾多ノ變動ヲ生スルナラン即チ  
復哨ヨリ小哨、小哨ヨリ前哨中隊ニ至ル從來慣行ノ距離  
ヲ株守スルルハ動モスレハ小哨ハ復哨ノ警報ヲ聽クニ  
能ハスシテ前哨中隊ハ復小哨ノ戰鬪ヲ聽クニ能ハサル  
ニ至ラン之ヲ預防センカ爲メニハ前哨ノ各部ヲ近接セ  
シメ從テ其後方部隊ヲシテ戰鬪準備ヲ嚴ナラシメサル  
可ラス於是前哨勤務ハ從來ニ比シ其力ヲ勞スルニ大ホ  
ルニ至ラン或ハ之カ爲メ聽哨ヲ設置シ若クハ特別ナル  
記號勤務ヲ實施シテ右ニ代フルヲ良シトセン若シ前哨  
勤務ヲ變更セザレハ新火藥ノ爲メ前哨ハ急襲ノ憂ニ遭

フイ多カラシ

左ニ各兵種ノ對戰即チ先ツ歩兵ト歩兵相對スル戰闘ヲ  
論セシ

從來ノ戰闘ヲ考フルニ彼我相距ルハ遠キ地ニ於テ射擊  
ノ未タ激烈ナラサル間ハ殆ソト硝烟ノミニ依リ撤兵ソ  
所在ヲ知リ漸ク相近クヤ射擊激烈トナリ硝烟益濃ク撤  
兵ハ遂ニ濃烟中ニ沒却シ跟隨セル援隊及預備隊モ亦共  
ニ茲ニ沒却ス今ヤ全ク然ラスシテ遠距離ノ地ヨリ撤兵  
ノ所在ヲ知ルヲ能ハス接近スルニ從ヒ却テ益跟隨ス  
所ノ援隊及預備隊ヲシテ撤兵ト共ニ明瞭ニ知ルヲ得  
シムヘシ故ニ蔭蔽物ノ後方ニ占位セル守者ノ爲メニハ

狀況益有利トナリ之ニ反シ前進スル攻者ノ爲ニハ狀況  
益々不利トナルヘシ即チ守者ハ最後ニ至ルマテ敵ニ暴  
露スルヲナクシテ十分其銃ヲ利用シ得ルモ攻者ハ如斯  
スルヲ能ハサル可シ之ニ依リ守者ノ利ハ非常ニ多クシ  
テ攻者ノ利ハ正ニ相反スヘシ即攻者ハ豫メ砲兵ノ射擊  
ニ依リ敵ノ歩兵ヲ挫キ若クハ決戰地ニ於テ攻者ノ兵數  
敵ニ倍スルカ若クハ三倍スルニアラサレハ概テ攻撃ヲ  
爲スヲ能ハサルニ至ルヘシ要スルニ攻者ハ其援隊及預  
備隊ヲ從前ヨリモ早ク展開スルヲ要ス何トナレハ敵ノ  
通視ヲ遮ル所ノ硝烟ナク而シテ守者ハ目撃スル所ノ敵ノ  
援隊及預備隊ニ對シ甚タ早ク一齊射擊ヲ爲シ得ヘキヲ

アト多カラシ

左ニ各兵種ノ對戰即チ先ツ步兵ト步兵相對スル戰闘ヲ  
論セシ

從來ノ戰闘ヲ考フルニ彼我相距ルルヲ遠キ地ニ於テ射擊  
ノ未タ激烈ナラサル間ハ殆ント硝烟ノミニ依リ撤兵ノ  
所在ヲ知り漸ク相近クヤ射擊激烈トナリ硝烟益濃ク撤  
兵ハ遂ニ濃烟中ニ沒却シ跟隨セル援隊及預備隊モ亦共  
ニ茲ニ沒却ス今ヤ全ク然ラスシテ遠距離ノ地ヨリ撤兵  
ノ所在ヲ知ルヲ能ハス接近スルニ從ヒ却テ益跟隨スル  
所ノ援隊及預備隊ヲシテ撤兵ト共ニ明瞭ニ知ルヲ得セ  
シムヘシ故ニ蔭蔽物ノ後方ニ占位セル守者ノ爲メニハ

狀況益有利トナリ之ニ反シ前進スル攻者ノ爲ニハ狀況  
益々不利トナルヘシ即チ守者ハ最後ニ至ルマテ敵ニ暴  
露スルヲナクシテ十分其銃ヲ利用シ得ルモ攻者ハ如斯  
スルヲ能ハサル可シ之ニ依リ守者ノ利ハ非常ニ多クシ  
テ攻者ノ利ハ正ニ相反スヘシ即攻者ハ豫メ砲兵ノ射擊  
ニ依リ敵ノ步兵ヲ挫キ若クハ決戰地ニ於テ攻者ノ兵數  
敵ニ倍スルカ若クハ三倍スルニアラサレハ概チ攻撃ヲ  
爲スヲ能ハサルニ至ルヘシ要スルニ攻者ハ其援隊及預  
備隊ヲ從前ヨリモ早ク展開スルヲ要ス何トナレハ敵ノ  
通視ヲ遮ル所ノ硝烟ナク而シテ守者ハ目撃スル所ノ敵ノ  
援隊及預備隊ニ對シ甚タ早ク一齊射擊ヲ爲シ得ヘキヲ

以テナリ  
 又無烟火藥ハ砲兵戰ニ關係スル所大ナリ砲兵ハ是ニ因  
 リ其威力ヲ逞フシ得ヘキカ故ニ從テ其射法ニ注意シ且  
 ヌ同陣地ニ長ク駐止スルハ甚ク重要ナル事トナレリ從  
 來ハ砲兵射撃ヲ始ムルヤ我砲兵中隊ノ硝烟ハ其前面ヲ  
 掩フテ一種ノ被覆ヲ成形スルヲ以テ中隊長ノ觀測甚ク  
 困難トナリ所謂側方觀測者ヲ置カサル可ラサル事トナ  
 レリ然ルニ斯ノ如キ展望者ヲ用ユルヲ得ルハ枝隊戰ニ  
 シテ即チ二三ノ砲兵中隊互ニ並列シテ射撃スル時ニ限  
 リ之ヲ用ユルヲ得ルモノニシテ大戰即チ一軍團ノ砲兵  
 中隊擧テ並列スルカ如キ時ニ在テハ其中隊ノ側方觀測

者ヲ置クノ難キハ予輩ノ信スル所ナリ即チ大戰ニ於テ  
 ハ我ヨリ發スル硝烟ノ爲メ敵ヲ觀察スル困難ナルカ加  
 ヘテ敵ノ硝烟亦タ一層我爲メニ不利トナリシナリ故ニ  
 硝烟ハ砲兵戰ノ初期ニ於テ射撃目標ト爲ルモ忽チニシ  
 テ其効チ却テ試射ノ觀測ヲ妨クルニ至ル然ルニ全戰  
 間ノ効力ハ此觀測ニ因リ其利益ヲ生スルモノナリ即チ  
 射撃場ノ經驗ニ基キ吾人ハ望ヲ試射ニ屬スル大ナリ其  
 他射撃場ニ於ケル砲兵ノ數ハ概テ寡クシテ射撃時間モ  
 亦短ク爲メニ實戰ニ於ケル硝烟ノ情況ヲ察セシムルニ  
 足サルコトヲ考ヘサル可ラス夫ノ皇帝陛下ノ施行セラレ  
 機動演習ニ在テモ彼我共ニ其兵力一軍團ニ出テスレ

テ使用スル所ノ彈藥モ亦演習彈藥即チ少數彈藥ヲ使用  
 シ加之彼我ノ砲數戰時充員ノモノニ及ハスシテ實戰ニ  
 於ケルカ如ク相密接シテ位置スルコトヲ硝煙ハ凡半時  
 間ノ後ニアラサレハ濃密トナラサルカ故能ク狙覘スル  
 コトノ困難ナルコト及敵ノ傍ニ達シタル砲彈モ恐クハ觀測  
 スルコト能ハサルコトヲ以テ意ニ介セス今ヤ全ク然ラズ  
 射撃スル所ノ砲兵中隊ノ數多ク新火藥ノ淡黃色ハ觀測  
 可ラサルニアラサルモ透明ニシテ決シテ物ヲ遮蔽スル  
 コトナシ故ニ從來戰時ニ於テ硝煙アルニ拘ラス砲兵ハ著  
 大ク効力ヲ顯シ得タリトスレハ此害ヲ除キタルコト今  
 其効力ノ大ナル幾何ツヤ從來ハ戰鬪間ニ於テ彈丸ヲ命

中多クハ偶然即チ天運ニ任セシモ今ヤ人ノ才能ト熟練  
 トヲ以テス是ニ於テ始メテ合理ノ射撃ヲ爲スコトヲ得則  
 チ勝敗ノ決ハ天運ニ任セスシテ中隊長及照準手ノ熟練  
 ニ任スルニ至ル然レモ(以下ノ文ニ至テハ砲兵將來少効  
 カニ關シ諸種ノ意見續出スルニ至ラシ)敵砲ノ所在ハ之  
 ヲ目撃スルヲ要ス仮令之ヲ目撃スルヲ得サルモ之ヲ知  
 ラスニハアル可ラス然ラサレバ全ク命中セサルコト固ヨ  
 リ論ヲ俟タサルナリ要スルニ敵ヲ見ルニアリテ成ルハ  
 敵ヨリ見ラレサルニアリ此事タル極メテ困難ナルニ  
 至ルヘシ而シテ目下吾人ノ所持スル眼鏡ハ未タ以テ蔭  
 蔽シ或ハ觀測ニ不便ナル地物ノ前方ニ占位スル砲門ヲ

發見スルコト能ハス是レヲ能クスルニ至リ初メテ敵砲ヲ射撃シテ効ヲ奏シ我ニ在テハ敵ノ見ル所トナラス我カ爲ニ有利ナル戰局ヲ結ニ至ラン今ヤ間接射撃ハ十分其價值ヲ有スルニ至レリ從前ニ在テハ砲兵其砲列ヲ布クハ蔭蔽シテ之ヲ爲シ得ヘシト雖モ一回射撃ヲ始ムルヤ稍烟ニ依テ忽チ敵ノ知ル所トナル而シテ敵ハ常ニ側方向ヲ觀測シ得可ク唯其後方ニ蔭蔽物アリテ直ニ之ニ接スルヤ若クハ二三百米突ツ距ルヤ否ヲ知ラサル時ニ於テ縱方向ニ其射線ヲ延シ若クハ之ヲ縮メ以テ何者ニカ命中セシムルヲ得タリシナリ今ヤ蔭蔽物ヲ後方ニ於テ淺黃色ノ飛散スルヲ見ント欲セハ印土人ノ眼若クハ眼鏡

ヲ用ヒサル可ラスニ要スルニ砲兵ハ殊ニ攻戰ニ在テハ最モ意ヲ注テ其陣地ヲ選擇シ此陣地ニ蔭蔽シテ急ニ射撃ヲ始ムルヲ要ス此事ニシテ躊躇スルコトアラソカ遂ニ敗ヲ招クニ至ラン而シテ砲兵將校ノ熟練ハ從前ヨリモ更ニ重キヲ置ケリ若シ我砲兵ニシテ敵ノ砲兵ヨリモ優勢ヲ占メントスレハ我砲兵ノ一部ヲシテ敵ノ歩兵ヲ射撃セシム可シ然ラサレハ其歩兵ニ對シ試射スル前既ニ其ノ砲兵ノ挫ク所トナラン無烟火藥ヲ用フル所ノ我歩兵ニシテ能ク蔭蔽スルハ敵ノ歩兵ニ倍若クハ三倍スルニアラサレハ何如トモ爲ス能ハサル可シ故ニ砲兵ヲ以テ歩兵攻撃ノ準備ヲ爲スト益々必要トナルニ至ラン



然リ而ノ砲兵戰勝ヲ制スルノ後ニアラサレハ此準備戰  
 ヲ爲ス可能ハサル今日ニ在テハ最初ノ砲兵戰ニ依テ以  
 テ爾後ノ經過自ラ定マルモノト云フモ謬言ニアラサル  
 ナリ故ニ戰鬪中第一ニ巧ニ機動シ且ツ能ク射撃スル所  
 ノ砲兵ヲ要ス之ニ依リ砲兵ハ戰鬪ノ經過ニ影響ヲ及ホ  
 ス所ノ大ナル兵科ト稱スルヲ得ヘシ  
 砲兵ハ前進スル歩兵ニ對シ亦其効力ノ著大ナル固  
 論ナキナリ何トナレハ從前ヨリモ能ク之ヲ目撃シ得ル  
 ヲ以テナリ然レモ亦タ敵ノ歩兵枝隊ハ蔭蔽シテ近距離  
 ニ達シ且ツ見ル所トナラサルヲ以テ砲兵ノ危險益々多  
 シトス

駐止セル敵ノ狀況ヲ搜索センカ爲メニハ騎兵ニ望ムニ  
 左ノ事ヲ以テス可シ即チ敵ヲ目撃スルマテ前進シ敵彈  
 ヲ避クルノ唯一ノ方法ハ其馬ノ速力ニ賴ルト是レナリ  
 其他戰鬪中騎兵ノ動作ニ變更ヲ生スルヤ否ハ一問題ナ  
 リ騎兵ハ新銳ナル歩兵ニ對シ襲撃スルヲ能ハサルハ既  
 ニ世人ノ認識スル所ナリ然レモ勝敗ヲ決シ敵ノ歩兵秩  
 序ヲ亂シテ退却スルハ之ニ對シ襲撃スルヲ得可シ  
 戰鬪ニシテ激烈且ツ執拗ナリシトハ其反動トシテ敗况  
 從テ甚シク畏懼ノ心熾ニシテ抵抗力極メテ微弱ナル  
 ヘシ又騎兵ハ射撃スル所ノ砲兵ニ對シ襲撃スルヲ能ハ  
 スト斷言ス可ラサルモノアリ假令砲兵ハ硝烟ノ爲メ受

クル所ノ害ヲ除キ能ク狙覘シ能ク觀察シ得ルニ至リタ  
 ルモ蓋シ砲兵ハ其効ノ大ナラシヲ欲スレハ必ラス先  
 ツ試射スルヲ要スルモノナルニ趨捷且ツ迅速ニ襲撃ス  
 ル騎兵ニ對シ之ヲ能クシ得ルヤ否之カ爲メニハ砲兵中  
 隊長及照準手ノ沈着ヲ要スト雖此沈着タル射撃場ニ  
 於テスラ尙之ヲ得ルヲ難シ况ンヤ慘憺タル光景死生相  
 別ル、ノ時ニ於テヲヤ  
 以上述ヘタル所ニ由テ之ヲ觀レハ硝烟滅却セシ爲メ小  
 部隊内ノ通視ヲ容易ニシ從テ小部隊ノ指揮ヲ自在ナラ  
 シムルニ至リシト雖此我カ爲ニハ敵ノ目撃ヲ防クヲ專  
 要トナルニ至リ若シ此目的ヲ達スルヲ能ハサレハ巧ニ

運動シ且ツ機ニ應スル隊制ヲ採ラサル可ラサルヲ自ラ  
 明カナリ硝烟ハ從來敵ニ對シテ我失策ノ過半ヲ掩護ス  
 ルモノナリシカ今ヤ容易ニ我カ失策ヲ看破セラルヘシ  
 又交戦間前進ニ拙ナル軍隊ハ從前ヨリモ其損傷ヲ蒙ル  
 一多シ特ニ攻者ニ於テ然リトス何トナレハ攻者ハ到底  
 露出セサルヲ得サルモ守者ハ自ラ攻勢ニ轉スルマテ多  
 少潜匿シ得ルヲ以テナリニ戰鬪間ノ喧噪ハ依然トシテ  
 大ナルモ號令ノ意ヲ通スルヲハ從前ヨリモ容易ナルヘ  
 シ硝烟ノ戰場ヲ掩蔽セサルニ至リ戰士ハ之カ爲メ其勇  
 氣ヲ勃興セシムルヤ將却テ其志氣ヲ沮喪セシムルヤ今  
 之ヲ斷言スル能ハス蓋シ眼前ニ顯出スル危険ハ一ハ以

百六十一  
テ其勇氣ヲ勃興セシメ一ハ以テ其志氣ヲ沮喪セシム可  
シ而シテ高級指揮官ニ及ホス所ノ影響何如ニ想フニ次  
如クナルヘシ即チ騎兵ハ駐止スル敵ヲ搜索セシカ爲メ  
毫モ畏懼セスシテ之ニ接近スルモ參考ニ供スヘキ報告  
ヲ得ルヲ從來ニ比シ蓋シ尠カルヘキハ固ヨリ疑ヲ容レ  
ス而シテ用兵上ノ一大難事ハ常ニ敵狀ノ確實ナラサル  
ニ在ルヲ以テ用兵ノ法ハ無烟火藥ノ爲メニ困難ナルニ  
至ルヘシ即チ戦闘ノ當始ニ在テ獨立指揮官ハ從前ヨリ  
モ五里霧中ニ困難シ既ニシテ戦闘ヲ開始スルニ至ルモ  
亦其經過ヲ詳カニスルヲ尠ナルヘシ從來指揮官ハ硝  
烟ニ依テ敵ノ陣地ヲ知り烟線ノ前後ニ進退スルヲ見テ

百六十一  
彼我ノ軍隊ヲ識別シ又歩兵射撃ノ轟然タル響音ニ依リ  
往々遠距離ノ地ヨリ報告ノ到來スル以前既ニ激戦アル  
ヲ知テ之ニ兵員ヲ増加シタリシカ今ヤ是等ノ便全ク消  
滅セシヲ以テ益々報告ニ依頼セサル可ラサルヲトナレ  
リ然ルニ所要ノ處置ヲ爲サンカ爲メ機ヲ失セス報告ノ  
到來セサルヲアルヲ以テ從前ニ比シ亦タ下級指揮官ノ  
專斷ニ放任セサル可ラサルヲ多カルヘシ  
無烟火藥ノ利タルヤ專ラ守勢ニアルヲ右ニ依テ明カナ  
リ然ラハ則チ陣地ノ攻撃ハ廢ス可キヤ否決シテ然ラス  
守勢ハ學理上ニ於テ攻勢ニ比シ常ニ強シト雖モ實際ノ  
經驗ハ攻者ハ概テ勝者タルヲ指示ス故ニ攻者ハ必ス常

ニ守者ヨリモ勢力アリ若クハ勢力アリト感シ守者ハ攻者ヨリモ微弱ナリ若クハ微弱ナリト感セリ古來名將ハ攻勢ヲ探ルヲ得レハ必ス攻撃セリ是レ將來ト雖モ依然トシテ變セサル戦法ナラン砲兵ノ爲メニ蔭蔽陣地アラサレハ遠距離ニ避ケテ敵眼ヲ遮キルノ法ヲ求メ遠距離ヨリ砲兵ノ攻撃ヲ始ム可シ若シ砲撃ヲ以テ敵ノ砲撃ヨリ優勢ヲ占ムルノ目途ナケレハ優勢ノ兵力ヲ以テ敵ノ陣地中其弱點ノ守者ヲ急襲センヲ努ム可シ又夜間暗黒ノ時ニ乘シ成ルヘク敵ノ陣地ニ接スルヲ往々利アル可シ是レ拂曉ニ至リ大團隊ヲ指揮シ得ルニ至レハ乃チ陣地ノ弱點ニ向ヒ急襲攻撃ヲナサシカ爲メナリ若シ此

事行フ可ラストセハ巧ニ機動シ敵ヲ其陣地ヨリ誘出シ堅固ナル陣地以外ニ於テ之ヲ攻撃ス可シ大膽ニシテ趨捷ナル指揮官ハ兵力敵ヨリ甚々寡少ナラス而シテ戦略上妨ケナケレハ必ラスヤ右ノ如キ動作ヲ爲シ以テ勝ヲ收メシヲ期ス可シ陣地ヲ攻撃スル者若シ勝者タラント欲セハ單ニ陣地ノ一點ヲ略スルヲ以テ足レリトス守者若シ依然トシテ勝者タラント欲セハ其陣地ノ諸點ヲ保守セサル可ラス攻撃(概シテ戰役)ハ無烟火薬ニ依テ寧ロ技術トナレリ

○ 時ニ經過スルニ從ヒ新發明アルカ爲メ用兵法ハ尙何如

ナル變動ヲ起スヤ之ヲ推測スルヲ能ハス然レモ戰役ノ性質ニ至テハ依然トシテ變スルヲナカル可シ生命ノ危險勞力不確實不明瞭及重責ハ戰鬥ニ於ケル最大重要ナル關係ヲ有スルニ至ル可シ此危險ヲ冒シ勞力ヲ厭ハス不確實ト不明瞭トノ内ニアリテ重責ヲ帶ヒテ動作スルニハ常ニ銳悟ナラソコヲ要スルノミナラス尙其心膽鍊石ノ如クナルヲ要ス此鍊心ニ依リ始メテ勇氣忍耐大膽果斷ニ處理スルコヲ得ソ故ニ軍人ノ美質ハ智力ヨリモ寧ロ天資ニ起因スルナラン

戰略術問答第六卷畢

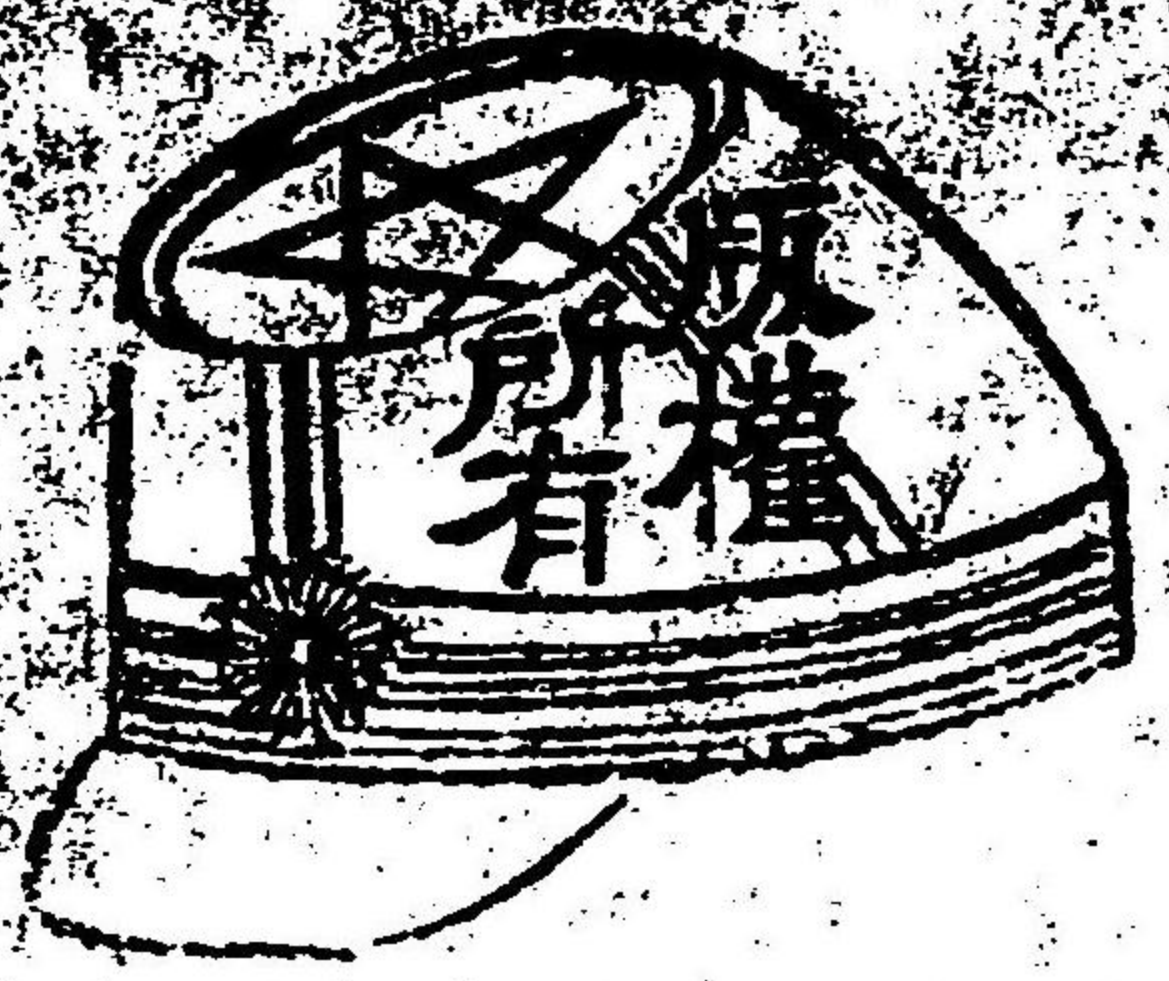
明治廿七年一月三十日印刷  
同 年二月八日發行

定價金拾壹錢

滋賀縣平民

柴田源三郎

東京市麴町區麴町二丁目八番地



印刷所

兵 林 館

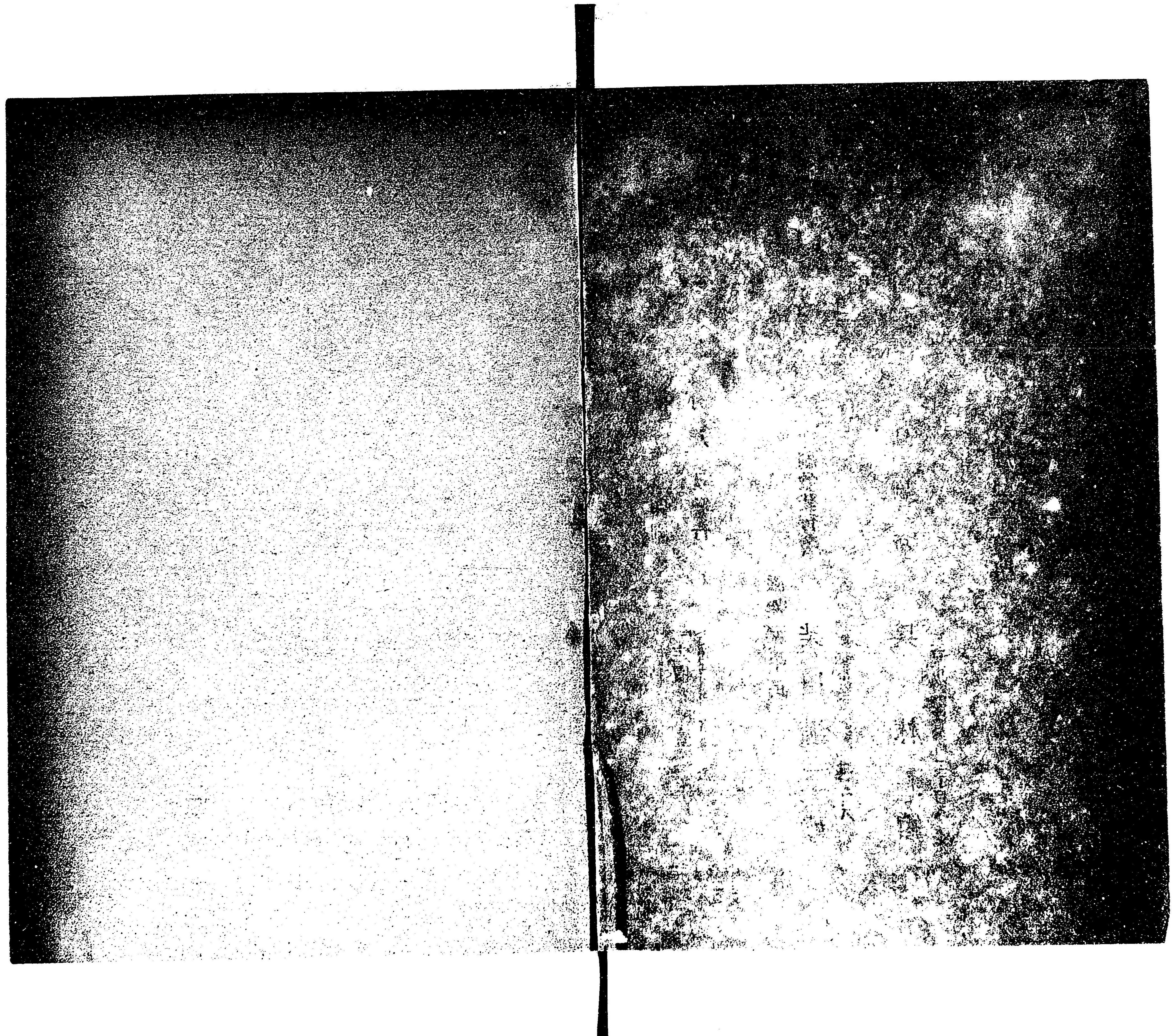
東京市麴町區麴町二丁目八番地

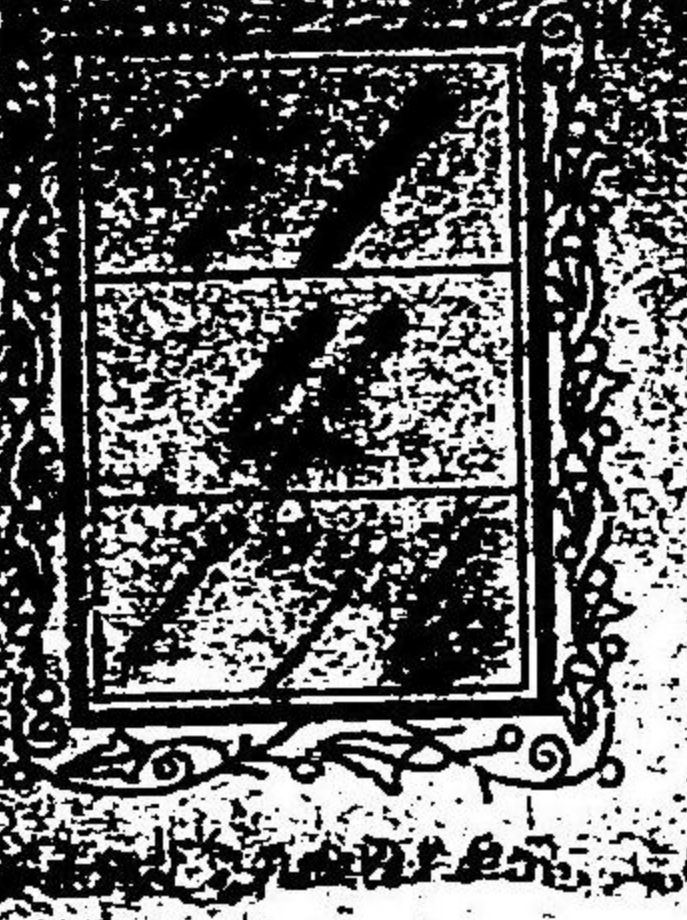
印刷兼發行者

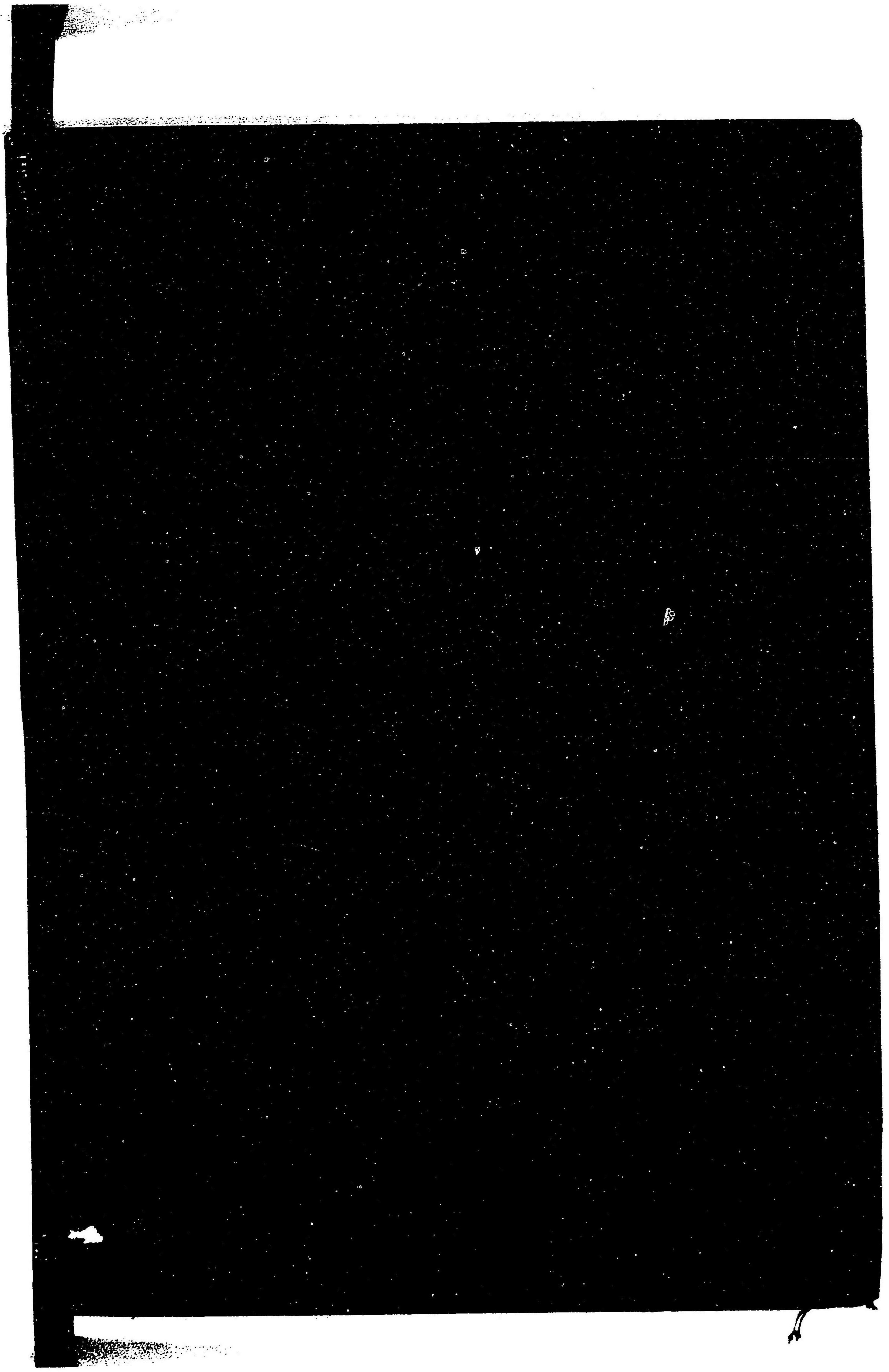
陸軍大學校  
幼年學校  
御用印刷并發賣所

兵 林 館

東京市麴町區麴町二丁目八番地









71  
176

